

# 造形ワークショップ「こねこねひろば」の試み

藤田知里 (初等教育学科)

## Attempt at Planning and Running an Art Workshop "KONE KONE HIROBA"

Chisato FUJITA (Department of Elementary Education)

### 抄 録

本報告は、2013年10月19日(土)に開催された、子どもと保護者が造形活動を楽しむためのワークショップ「こねこねひろば」に関するものである。「こねこねひろば」は、就実大学初等教育学科3年生で図画工作・造形表現を研究している学生が自ら企画・運営を行ったもので、当日は11組28名(ワークショップ参加者15名、保護者11名、乳児2名)の親子が参加し、粘土遊びを楽しんだ。内容は、①みんなでこねこね、ねんどあそび、②ねんどのすずをつくろう(5-7歳児)、ねんどのレリーフでじぶんのかおをつくろう(3,4歳児)である。このワークショップを通して、参加者には、子どもが触覚、視覚、聴覚、嗅覚等の感覚を通して粘土という材料を体験し、粘土による表現を楽しむことのできる場を提供することができ、また、学生には、子どもの造形活動における指導や援助について、実践経験を通して学ぶ良い機会となった。

キーワード： 造形表現, 造形, 子ども, ワークショップ

### I はじめに

2011年度、2012年度に就実大学初等教育学科で筆者のゼミナールに所属した3年生が、親子で造形活動をダイナミックに楽しむためのワークショップを開催した。その取り組みについては報告済みである<sup>1)</sup>。

これまでの反省と課題の検討を通して、リーダーを務めた学生から、参加した子どもたちが自分なりの造形表現を展開させるために必要となる、基本的な造形技能を学ぶ活動を取り入れてはどうか、との提案がなされた。そのため、2013年度に開催するワークショップでは内容を一新し、粘土を用いた造形活動を中心に行うこととし、プログラムも、ウォーミングアップと制作の2つのみとした。

本報告は、子どもの造形活動をより豊かなものとするために、学生が中心となり企画されたワークショップに関するものである。